Prinergy

リリース 2.2
リリース ノート

06-0307D-JA-B
最終更新日：２００４ 年 ４ 月

著作権

Copyright © 2004 Creo Inc. All rights reserved.

Creo の書面による明示的な許可なくして、本マニュアルのすべてまたは一部を複製、頒布、出版、変更、または組み込むことはできません。本マニュアルの複製、頒布、出版、変更、または組み込みが許可されている場合は、著者帰属、商標凡例、または著作権表示を変更または削除することはできません。

Creo, Inc. の書面による明示的な許可なくして、電子的、機械的、複写、記録、またはその他のいかなる形式や方法でも、本ドキュメントのすべてまたは一部を複製、検索システムに格納、出版、商取引の開発を目的とした使用、または伝送することはできません。

本マニュアルは、Adobe Systems Incorporated の PDF (Portable Document Format) 形式によっても頒布されています。お客様は、社内使用を目的として PDF ファイルから本マニュアルを複製することができます。PDF ファイルからコピーを作成する場合は、マニュアル全体を複製する必要があります。

商標

Creo 文字商標、Creo ロゴ、および本マニュアルで参照されている Creo の製品とサービスの名前は、Creo, Inc. の商標です。

PageMaker および PostScript は Adobe Systems, Inc. の登録商標で、米国特許商標局で登録されており、他の法域で登録されている場合もあります。

Macintosh は Apple Computer Inc. の商標です。

Windows は Microsoft Corp. の商標または登録商標です。

QuarkXPress は Quark, Inc. およびすべての当該関連会社の商標で、米国特許商標局および他の諸国で登録されています。

その他の銘柄または製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

FCC 準拠

本マニュアルで参照されている Creo 装置は、クラス A コンピューティング デバイスに対する FCC 規定のパート 15 の必要条件に準拠しています。住宅地域における Creo 装置の運用によってラジオまたはテレビの受信に有害な干渉が引き起こされる可能性があり、そのような場合は、お客様がご自分で干渉を除去する必要があります。

責任の制限

製品、ソフトウェア、またはサービスは、「現状有姿」および「利用可能な状態」で提供されています。お客様の契約書に明白に記述されている場合を除いては、Creo, Inc. は、商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を明示であると黙示であるとを問わず、一切負うものではありません。

Creo Inc. は以下から生じた直接的、非直接的、付随的、特殊的、間接的、または懲罰的な損害 (損害にはこれらすべてを含みますが、それだけに限りません)、利益の損失、業務上の信用、使用、データ、または無形資産の損失については一切責任を負わないことに、お客様は理解して同意されたものとします。(i) 製品またはソフトウェアの使用またはその能力の欠如、(ii) 購入された製品、商品、データ、ソフトウェア、情報、またはサービスから生じた代用の商品およびサービスの調達価格、(iii) 製品、ソフトウェア、またはデータの許諾されていないアクセスまたは変更、(iv) 第三者の声明または行為、(v) 製品、ソフトウェア、またサービスに関連するその他のいかなる事項。

本マニュアルのテキストおよび図は、説明および参照を目的として提供されています。これらが基づいている仕様は変更される可能性があります。本マニュアルの内容は、予告なしに変更されることがあります。Creo, Inc. または Creo, Inc. の子会社は、本マニュアルにおける技術上または編集上の誤りまたは脱漏の責任は一切負いません。また、付随的、間接的、非直接的、または特殊的な損害 (本マニュアルの使用から生じた使用喪失、データの損失または変更、遅延、あるいは利益または貯蓄の損失を含みますが、それだけに限りません) についても一切責任を負いません。

特許

本製品は、以下の米国特許のうちの 1 つまたは複数を対象としています。

RE37,376	5,283,140	5,517,359	5,699,740	5,969,872	6,134,393	6,283,589
4,456,924	5,291,273	5,519,852	5,708,736	5,973,801	6,136,509	6,295,076
4,500,919	5,323,248	5,526,143	5,713,287	5,986,819	6,137,580	6,299,572
4,558,302	5,325,217	5,532,728	5,742,743	5,995,475	6,147,789	6,318,266
4,743,091	5,339,176	5,561,691	5,764,374	5,996,499	6,158,345	6,340,817
4,992,864	5,343,059	5,568,595	5,764,381	5,998,067	6,159,659	6,352,816
5,049,901	5,355,446	5,576,754	5,771,794	6,003,442	6,164,637	6,353,216
5,079,721	5,359,451	5,579,115	5,785,309	6,014,471	6,180,325	6,366,339
5,081,617	5,359,458	5,592,309	5,802,034	6,016,752	6,181,362	6,371,026
5,103,407	5,367,360	5,594,556	5,813,346	6,031,932	6,181,439	6,377,739
5,111,308	5,384,648	5,600,448	5,818,498	6,043,865	6,186,068	6,387,597
5,113,249	5,384,899	5,608,822	5,854,883	6,060,208	6,189,452	6,396,422
5,122,871	5,412,491	5,615,282	5,861,904	6,063,528	6,191,882	6,396,618
5,124,547	5,412,737	5,625,766	5,861,992	6,063,546	6,204,874	6,407,849
5,132,723	5,420,702	5,636,330	5,875,288	6,072,518	6,208,369	6,414,755
5,150,225	5,420,722	5,649,220	5,894,342	6,090,529	6,214,276	6,422,801
5,153,769	5,459,505	5,650,076	5,900,981	6,096,461	6,217,965	6,435,091
5,155,782	5,473,733	5,652,804	5,934,196	6,098,544	6,252,522	
5,157,516	5,481,379	5,680,129	5,942,137	6,107,011	6,260,482	
5,208,818	5,488,906	5,691,823	5,946,426	6,112,663	6,266,080	
5,208,888	5,497,252	5,691,828	5,947,028	6,115,056	6,266,134	
5,247,174	5,508,828	5,696,393	5,958,647	6,121,996	6,267,054	
5,249,067	5,509,561	5,699,174	5,966,504	6,130,702	6,268,948	

Creo, Inc.
3700 Gilmore Way
Burnaby, B.C., Canada
V5G 4M1
電話： 1-604-451-2700
FAX: 1-604-437-9891
http://www.creo.com

06-0307D-JA-B
最終更新日：２００４ 年 ４ 月

目次

はじめに 1

このリリース ノートの内容 1

修正された問題 2

DCS ラスター出力で [デバイス] セクションのチェックボックスの設定が維持されない 2
Virtual Proofing System の [面付け] 表示でページの向きが誤って表示される 2

新機能 3

インストールおよびシステムの機能 3
Prinergy Update Utility 3
ファイルへのバックアップ 4
最新のジョブ共有設定の自動呼出し 5
EPM と障害迂回 5
DotShop スクリーニング : Composer とプラグイン 6
Creo PDF Trapper 7
リファイン機能 8
Creo Color Matcher 8
ブラックとして扱う 8
印刷しないカラー スペースのデータの検出 9
複数のノーマライザ設定ファイル 10
CT/LW および TIFF/IT データの検出 11
PDF/X-3 の出力インテント 12
スポット カラーの不明な定義を修正 12
濃いブラックのオーバープリント 12
ページを中央に揃える 13
APA の演算処理と新しい APA エディタ 14
ページ ジオメトリ設定の加算/減算 18
出力機能 18
PDF の発行およびベクター出力における PDF のスケーリングと回転 18
Veris 対応プルーフの印刷 20
スクリーニング履歴 21
新しい可変マーク 22
インキ レポート 22
DigiCap スクリーニング 24
HyperFlex スクリーニング 24
Virtual Proofing System 2.0 25
デジタル印刷 26
オーバープリント処理 26
代用カラー定義の使用 27

拡張された機能 28

インストールおよびシステムの拡張機能 28
Prinergy Workshop と Adobe Acrobat 6 28
Synapse Link の統合 28
リファインおよび出力の拡張機能 30
PDF デジタル マスタのオプティマイズ 30
Page Assigner JDF における [All] のサポート 30
Page Assigner JDF をサポート 30
自動インポート機能の改善 30

Virtual Proofing System での TIFF タグ 31
Harmony カーブの並べ替え 31
レンダリング インテント 31

制限とこれまでにわかっている問題 32
NormInputConfig でトリミング ボックスを変更できない 32

はじめに



このたびは、Prinergy® ソフトウェアの最新バージョンをお買い上げいただき、ありがとうございます。このリリース ノートでは Prinergy ソフトウェアのリリース 2.2 に行われた変更と改善点についてお知らせします。適宜、詳細については、Prinergy オンライン ヘルプを参照してください。Prinergy 2.2 は、ユーザーの皆様がご自身でインストールできるアップデートです。システム要件およびアップグレードの手順の詳細については、Prinergy マニュアル CD 内の『Prinergy 2.2 アップグレード ガイド』(Part Number: 731-00072B) を参照してください。



注意: このリリース ノートで使用している印刷用語のページと面付けは、それぞれ、パッケージング用語のアートワークとレイアウトにあたります。

このリリース ノートの内容

このリリース ノートは、次のセクションに分かれています。

修正された問題 — 以前のリリースの Prinergy 以降に解決された問題について説明します。

新機能 — Prinergy ソフトウェアに追加された新しいメニュー コマンド、オプション、ウィンドウ、またはダイアログ ボックスについて説明します。

拡張された機能 — 既存の機能に行われた改善点について説明します。

制限とこれまでにわかっている問題 — 未解決の問題について説明します。

修正された問題

このセクションでは、Prinergy ソフトウェアの今回のリリースで解決された問題について説明します。

Prinergy 2.2 の開発中に Prinergy 2.1 で発見された問題は Prinergy 2.2 および 2.1 で可能な限り修正されました。通常、バージョン間の修正の差異は、数回のアップデートでなくなります。ただし、以下の問題は Prinergy 2.2 でのみ解決されています。

DCS ラスター出力で [デバイス] セクションのチェックボックスの設定が維持されない

プロセス プランで [**デバイス**] セクションの [**同じ名前で既存ファイルを上書き**] チェックボックスの設定が維持されませんでした。出力ファイルは必ず上書きされ、名前が変更されることはありません。

Virtual Proofing System の [面付け] 表示でページの向きが誤って表示される

スケーリングとページ回転を組み合わせて使用すると、ページの向きを決定する計算にエラーが発生していました。この問題は、折丁の出力内容には影響しません。

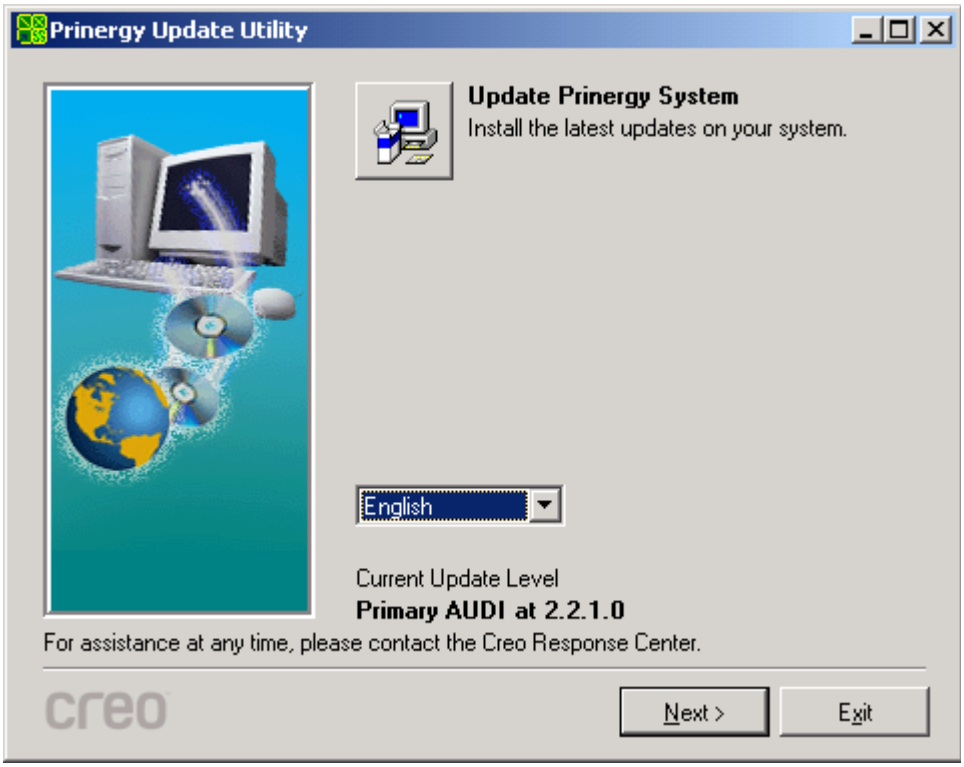
新機能

このセクションでは、Prinergy 2.2 で追加された新機能について説明します。

インストールおよびシステムの機能

Prinergy Update Utility

Prinergy Update Utility を使用すると、Prinergy のリリース 2.2 のインストールおよびリリース 2.2 へのアップグレードを行うことができます。また、今後のメジャー アップデートおよびマイナー アップデートをインストールするためにも使用できます。



Prinergy Update Utility は、以下の言語に翻訳されています。

- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- オランダ語

Prinergy Update Utility は、コマンド ライン ベースの Prinergy Product Update (PPU) ユーティリティの GUI バージョンです。PPU に慣れている方は、引き続き PPU をご使用いただくこともできます。

この機能のメリット

フルサービス契約を結んでいる場合には、Prinergy のアップデートを eCentral から入手することができます。これにより、アップデートの選択とインストールの時期を自由に決めることができます。

機能について

詳細は、『Prinergy 2.2 アップグレード ガイド』を参照してください。

注意: Prinergy 2.2.1.0 のアップグレードにはインストール キーが必要です。インストール キーを取得するには、eCentral にログオンして要求を送信してください。

ファイルへのバックアップ

オンライン バックアップ (ライセンス オプションの一種) を利用できる場合は、バックアップをテープに保存するという標準オプションの代わりに、バックアップをディスク上のファイルに保存することができます。

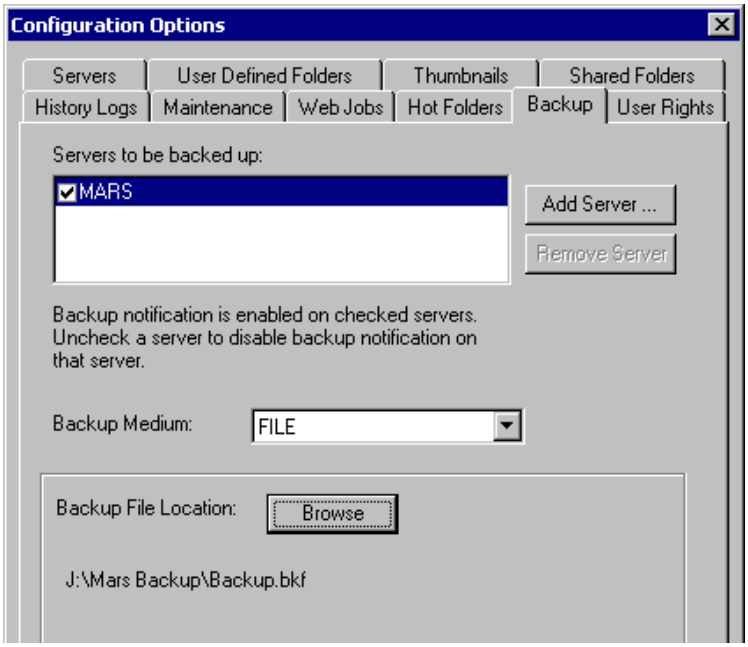
この機能のメリット

この機能を使用することで、Prinergy のバックアップで使用するメディアを選択できるようになります。バックアップをネットワーク上に保存すれば、既存のバックアップ方法をそのまま活用し、Prinergy サーバーに接続しているテープ デバイスを Prinergy アーカイブ専用にすることができます。

機能について

ファイルへのバックアップを有効にするには、次の操作を行います。

1. Prinergy Administrator で、[**ツール**] メニューから [**システム設定**] を選択します。
2. [**設定オプション**] ダイアログ ボックスで、[**バックアップ**] タブをクリックします。



3. [**Backup Medium**] ボックスで、[**FILE**] を選択します。

4. [**Backup File Location**] オプションの横の [**ブラウズ**] をクリックし、バックアップを保存する場所を選択します。



注意 : サーバーをバックアップするためには、オンライン バックアップ オプションを購入してライセンスを取得する必要があります。

詳細については、『Prinergy システム管理ガイド』(Part Number: 731-00057A) の「Prinergy システムのバックアップ」の章を参照してください。

最新のジョブ共有設定の自動呼出し

新しいジョブを作成すると、Prinergy Workshop によって最新の設定が呼び出され、それらがジョブのデフォルトとして使用されます。Prinergy Workshop では、以下のダイアログ ボックスの設定が保持されます。

- ジョブ ホーム
- テンプレート ジョブ
- ジョブ属性
- ジョブのインポート

この機能のメリット

この機能を使用すると、ジョブに必要なオプションを入力し直したり、選択し直したりする必要がなくなります。これにより、ジョブの作成が短縮され、設定ミスも最小限に抑えることができます。たとえば、Prinergy Workshop は、最後にジョブを作成した場所や、デフォルトのボリュームとしてそのジョブを使用した場所を記憶することができます。

機能について

この機能はデフォルトで有効です。

EPM と障害迂回

EPM+ は、EPM (Prinergy Emergency Platemaking) 機能を拡張するものです。この機能は、障害迂回の基本機能に、検証済みの VSR (Veritas Storage Replicator) のデータ複製機能を追加します。障害迂回（フェイルオーバー）とは、Prinergy プライマリ サーバーに障害が発生したときに、セカンダリ サーバー／レンダー ステーションがプライマリ サーバーの機能を継承することです。

この機能のメリット

障害迂回の後、プライマリ サーバーがオフラインになってから数秒後に障害迂回用サーバーがデータベースおよびジョブ アクセスを受け持ち、その時点から制作の拠点となります。システムは、プライマリ サーバーにデータが保存されていないすべてのジョブにフル アクセスが可能で、ジョブの処理と製版を継続できます。

機能について

詳細については、『EPM Plus (EPM+) Emergency Platemaking and VSR インストール / 操作ガイド』を参照してください。

DotShop スクリーニング : Composer とプラグイン

DotShop スクリーニング プラグインの新しいバージョンをご使用いただけます。この機能を使用するには、別途ライセンスが必要です。

このプラグインは、Prinergy プライマリ サーバーにインストールされたスクリーン インスタンス作成ソフトウェアである DotShop Composer の新規バージョンのリリースでサポートされています。

この機能のメリット

DotShop を使用して、PDF ファイル内のオブジェクトおよびページのスクリーニングをカスタマイズできます。DotShop Composer の機能は次のとおりです。

- プラグインが使用するスクリーン インスタンス ファイルを自動的に作成
- スクリーン インスタンスのコピー
- Maxtone および HyperFlex スクリーニングをサポート

機能について

サーバーで DotShop Composer を使用するには、次の操作を行います。

Windows デスクトップで [**Start**] > [**Programs**] > [**Prinergy**] > [**DotShop Composer**] の順に選択します。詳細については、Prinergy DotShop Composer のヘルプを参照してください。

クライアントで DotShop プラグインを使用するには、次の操作を行います。

DotShop プラグインは、Prinergy Workshop のインストールまたはアップデート中に、Acrobat の [**Prinergy_Plug-in_Disabled**] フォルダ内に保存されます。

- Windows クライアントの場合は、**CreoToolsPro.api** を [**Acrobat¥Prinergy_Plug-in_Disabled**] フォルダから [**Acrobat¥Plug-ins¥Prinergy**] フォルダにコピーします。
- Acrobat 5.05 をインストールした Macintosh クライアントの場合は、**CreoToolsPro** を [**Acrobat\Prinergy_Plug-in_Disabled**] フォルダから [**Acrobat\Plug-ins\Prinergy_Plug-ins**] フォルダにコピーします。
- Acrobat 6.0 をインストールした Macintosh クライアントの場合は、**CreoToolsPro** を [**Acrobat\MacOS\Prinergy_Plug-in_Disabled**] フォルダから [**Acrobat\Plug-ins\Prinergy_Plug-ins**] フォルダにコピーします。

DotShop プラグインを起動するには、Acrobat の [**編集**] ツールバーの [**Prinergy DotShop**] ボタンをクリックするか、Acrobat メイン メニューから [**ツール**] > [**Prinergy DotShop**] の順に選択します。詳細については、Prinergy DotShop の PDF ヘルプを参照してください。

Creo PDF Trapper

Creo PDF Trapper は、ベクター ベースのトラッピング ソフトウェアです。Creo PDF Trapper には、一般的な出力用およびパッケージング用の異なるトラッピング ワークフローに合わせたそれぞれのバージョンがあります。

この機能のメリット

Creo PDF Trapper ソフトウェアでは以下の操作を行うことができます。

- コンテキストおよび属性に応じてオブジェクト、トラップ、ボーダーを選択する
- 複雑なビットマップの自動トラッピングおよび手動トラッピングを実行する
- トラップ ジオメトリの編集、トラップ パスの編集、および Keepaway トラップ (Advanced バージョン) でパッケージングをサポートする

機能について

Trapper プラグインを起動するには、 Acrobat の [**編集**] ツールバーで次のうちいずれかのボタンをクリックします。

- **Creo PDF Trap Viewer**
- **Creo PDF Trap Editor**
- **Creo PDF Advanced Trap Editor**

または Acrobat メイン メニューから [**ツール**] > [**Creo PDF Trapper**] の順に選択します。

詳細については、『Creo PDF Trapper リリース ノート』(Part Number: 717-00108A) および Creo PDF Trapper ヘルプを参照してください。

リファイン機能

Creo Color Matcher

Creo Color Matcher は、Prinergy 印刷ワークフローのジョブ チケット プロセッサ (JTP) として提供される機能の一部です。

この機能のメリット

Creo Color Matcher は、Prinergy におけるカラー マネジメントに役立つ以下の機能をサポートしています。

- RGB 画像変換
  RGB 画像およびグラフィックを、Prinergy に付属する標準 ICC プロファイルまたはユーザーが作成するカスタム プロファイルを使用して、自動的に CMYK に変換できます。
- CMYK と CMYK のカラー マッチング
  CMYK と CMYK のカラー マッチングに関しては、Creo Color Matcher により、PDF ファイルのカラー スペースが、ICC プロファイルを使用して、特定の出力デバイス用に適切なカラー スペースに変換されます。リファイン時の CMYK と CMYK のカラー マッチングは標準機能です。プルーフ用の CMYK と CMYK のマッチング オプションには別途ライセンスが必要です。

L*a*b* などのようなデバイスに依存しないカラー スペースは、プロセス プランで使用されている ICC プロファイルに従って最終的なカラー スペースに変換されます。

機能について

詳細については、『Creo Color Matcher JTP リリース ノート』(Part Number: 717-00118A) を参照してください。

ブラックとして扱う

トラッピングの自動化を促進し、正しい結果を導き出せるように、Creo PDF Trapper ソフトウェアでは、ブラックなどの色をオプションで取り扱うことができます。



注意: 「ブラックとして扱う」オプションは、Creo PDF Trapper ソフトウェアのライセンスを所有している場合のみ有効です。

この機能を使用すると、カラー データベース内の色 (通常は特色) について [**ブラックとして扱う**] チェックボックスをオンにできるようになります。このように設定すると、Creo PDF Trapper は、それが JTP バージョンとプラグイン バージョンのどちらであっても、ブラックに適用するのと同じルールを使用してこの色をトラッピングするようになります。Creo PDF Trapper によるブラック オブジェクトに対する処理方法は、リファイン プロセス プランの [**トラップ**] セクションにおける [**ブラック**] 領域の設定によって決まります。[**ブラックとして扱う**] チェックボックスをオンにしても、色のスクリーン角度は変化しません。

この機能のメリット

カラーをブラックとして扱うには、次のようないくつかの理由があります。

- 濃い色の小さな文字を、塗りつぶされた背景に描かれた黒い文字のようにオーバープリントできるようにするため
- 下地にバンプ カラーが使われている場合に、色によってオブジェクトの形を定義できるようにするため
- 生成されたトラップをスケーリングできるようにするため。たとえば、不透明インキのオブジェクトをブラック オブジェクトに対してトラッピングする場合など

機能について

カラー エディタには、[**ブラックとして扱う**] チェックボックスが追加されました。カラーをブラック オブジェクトとしてトラッピングする場合に、チェックボックスをオンにします。



印刷しないカラー スペースのデータの検出

RGB、L*a*b*、CIE カラー スペースなど、印刷しないカラー スペースのデータを検出できるようになりました。また、そのようなタイプのデータが検出された場合の処理として、無視、警告、中止のいずれかを指定することができます。

つまり、Prinergy では、以下のこと行われます。

- ファイル (入力ファイルなど) 内の印刷しないスペース データの検出
- Prinergy で処理されたファイル (リファインされたファイルやデジタル マスタ ファイルなど) 内の印刷しないスペース データの検出
- 印刷しないスペース データ検出時の処理方法 (無視、警告、中止) の制御

警告や中止の状況は、タスク履歴の [**処理情報**] ダイアログ ボックスに表示されます。

この機能のメリット

この機能を使用して、提供されたファイルに処理対象となる印刷用スペース データのみが含まれていることを確認したり、リファイン プロセスでデータが正しくカラー変換することができます。

使用に適した状況

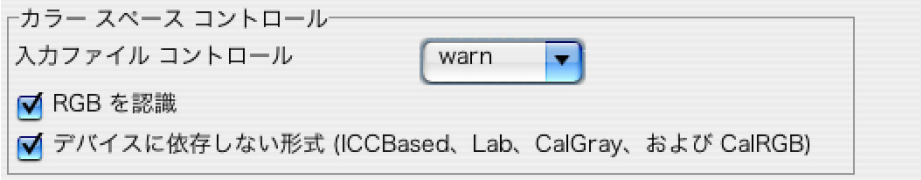
この機能は次の場合に使用します。

- 提供されたファイルの内容の整合性を確認するためのプリフライト プロセスとして使用する場合
- 受け取るファイルでは印刷用カラー スペースのみ使用することになっている場合

警告が出ないように、リファインしたファイルを確認する場合（リファイン プロセスのオプティマイズの手順を参照）

機能について

リファイン プロセス プランでは、カラー スペースの検出を制御できる箇所が 2 つあります。1 つはノーマライズで、もう 1 つはオプティマイズです。どちらの場合にも以下のような画面が表示されます。



ノーマライズの設定は、入力ファイルに必要な検出機能を制御するためのものです。一方、オプティマイズの設定は、リファイン済みの PDF ファイルに必要な検出機能を制御するためのものです。オプティマイズの前に、カラー変換で印刷しないカラー スペース オブジェクトが印刷用カラー スペース オブジェクトに変換されることもあります。オプティマイズで印刷しないカラー スペースがないかどうかチェックすることにより、カラー変換が正しく実行されたことを確認できます。

注意: ノーマライズの処理で [**中止**] が選択されている場合に印刷しないカラー スペース データが検出されても、リファインしたファイルのチェックが行われるため、処理は続行します。

複数のノーマライザ設定ファイル

高度な処理を必要とするユーザー向けに、複数のノーマライザ設定ファイルを使用して、高度なワークフローに対応することができます。設定ファイルをあらかじめ複数用意し、プロセス プランで指定します。

この機能を使用して、複数のノーマライザ設定ファイルを必要とする特別な処理を行うことや、ノーマライザが使用する設定ファイルをプロセス プランでの設定に基づいて指定することができるようになります。ノーマライザの動作は 1 種類に限定（たとえば、PostScript® Bypass または OPI Bypass のみなど）されないため、システム内の他のノーマライザと共にプールすることができます。

この機能のメリット

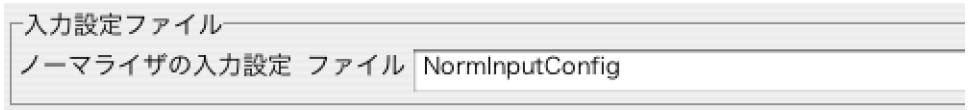
以前は、ノーマライザが行う処理を変更するには、ノーマライザ設定ファイルを編集し、ノーマライザ JTP を再起動する必要がありました。あるいは、特定の処理 (PostScript Bypass など) を実行するようにノーマライザが設定されている場合は、システム内の他のノーマライザと一緒にプールすることができませんでした。今回のリリースでは、ノーマライザを再起動する (そして、場合によっては、結果的に他のユーザーの作業を妨げる) ことなく、必要な設定ファイルを適用できるようになりました。

使用に適した状況

特定の種類の入力ファイルがノーマライザの動作に対する変更を要求する場合があります。たとえば、Postscript バイパスをいくつかのファイルに適用して、それ以外には適用しない場合などです。

機能について

リファイン プロセス プランのノーマライズの設定で、設定ファイルのパスと名前を以下のように指定します。



CT/LW および TIFF/IT データの検出

CT/LW コンテンツのトラッピングやオーバープリントを変更すると、ほとんどの場合望ましくない結果になります。従来は、CT/LW コンテンツやベクター コンテンツを含むページをトラッピングする必要が生じた場合、手動のトラッピング処理が必要でした。この新機能を使用すると、リファイン プロセス中にノーマライザによって検出された CT/LW データや TIFF/IT データのすべてにマークが付けられるため、以降のプロセスではそのデータに対してトラッピングおよびカラー マネジメントが実行されません。入力ファイルのリファインおよびトラッピングの大部分が自動で行われることは従来通りです。

この機能のメリット

以前は、混合コンテンツ (たとえば、トラッピングを必要とするベクター アートワークとトラッピングを必要としないラスター コンテンツ) を処理する場合、ページを手動でトラッピングする必要がありました。この新機能を使用すると、ラスター ベースのコンテンツが検出され、変更対象から除外されるため、入力ファイルのリファインおよびトラッピングを自動的に実行することができます。また、結果的に、すべてのページを 1 つのホット フォルダまたはプロセス プランで処理できるようになり、ページに CT/LW コンテンツが含まれているかどうかを確認するための作業負荷が軽減されます。

使用に適した状況

この機能は、入力ファイルに対するリファイン プロセスの一部として使用します。

機能について

リファイン プロセス プランの [**ノーマライズ**] セクションで、[**CEPS (CT/LW および TIFF/IT) 認識を有効化**] チェックボックスをオンにします。



PDF/X-3 の出力インテント

カラー変換中の最終出力プロファイルで PDF/X-3 出力インテントを選択できるようになりました。

この機能のメリット

このオプションは、入力ファイルが PDF/X-3 で、PDF/X-3 出力インテントで指定された ICC カラー プロファイルを使用して最終出力を行う場合に便利です。

機能について

リファイン プロセス プランの [**カラー変換**] タブで、[**最終出力プロファイルを埋め込み PDF/X-3 出力インテントに使用する**] チェックボックスをオンにします。

スポット カラーの不明な定義を修正

リファイン処理中に不明なスポット カラー定義を修正できるようになりました。

この機能のメリット

この機能により、ファイル内の複数のスポット カラー定義を 1 つの定義に変換できます。これにより、PDF カラーがより一貫したものとなり、印刷出力をより正確に表現できるようになります。

機能について

リファイン プロセス プランの [**カラー変換**] タブで、[**色成分が異なる同名のスポット カラーを個別に認識**] を選択します。

濃いブラックのオーバープリント

濃いブラック オブジェクト (K=100%、CMY のいずれかが 0% のオブジェクト) をオーバープリントできるようになりました。この機能は、Creo Color Match JTP のみで使用できます。

この機能のメリット

オーバープリントがブラック インキのみに限定されることはなくなりました。濃いブラックをオーバープリントに設定すると、ブラックもオーバープリントに設定されます。

機能について

リファイン プロセス プランの [**カラー変換**] タブで、[**濃いブラックをオーバープリントに設定**] を選択します。

注意 : 濃いブラックをオーバープリントに設定すると、C、M、Y チャンネルの濃淡の割合に応じて、インキ量が多くなる領域があります。

ページを中央に揃える

この機能を使用すると、面付けを割り当てる際にページを中央に揃えることができます。

面付けまたはジョブをインポートする場合、面付けのページを中央に揃えたままにするかどうかを指定できます。Prinergy Workshop を使用して、面付けからページを外して別のページと置き換える場合、置き換えるページの中央は元のページの中央と同じ位置になります。

ページの中央はトリミング ボックスの設定に基づきます。トリミング ボックスがない場合は、メディア ボックスが使用されます。

この機能のメリット

アートワーク コンテンツがトリミング ボックス (トリミング ボックスがない場合はメディア ボックス) に対して中央揃えに配置されている場合、Prinergy Workshop を使用すると、画像の位置調整を行わずに、アートワークをレイアウトの別の位置に再度割り当てることができます。

これまではメディア サイズが異なるアートワークごとにトリミング ボックスを設定する必要がありました。すべてのアートワーク コンテンツが中央揃えになっている場合は、手動によるこの操作は不要です。

使用に適した状況

設定によってはすべての面付けが中央揃えになっていることがあります。インポート プロセス プランを更新して、ページを常に中央に揃えることができます。

機能について

インポート プロセス プランのためのプロセス プラン エディタに [**レイアウトで単面アートワークを中央に揃える / 面付けでページを中央に揃える**] ボックスが追加されました。

このボックスには次のオプションがあります。

- [**設定値を維持**]: インポートされた面付けで中央に揃えられていたかどうかに従って、ページを中央に揃えます (Pandora™ を使用して設定できます)。
- [**中央揃え**]: すべてのページを面付けページに対して中央に揃えます。
- [**ページ オフセットの使用**]: ページをメディア ボックスまたはトリミング ボックスの左下角で面付け内に配置します (Prinergy 2.1 以前の動作と同様)。

面付け全体でページの中央揃え機能を有効にするには、次の操作を行います。

- インポート プロセス プランで [**中央揃え**] オプションを選択します。

[折丁] 表示から特定のページで中央揃え機能を有効にするには、次の操作を行います。

1. [**折丁**] 表示で、[**面付けプラン**] セクションを選択してから、[**表示**] メニューで [**表示項目**] を選択します。
2. [**表示項目**] ダイアログ ボックスで、[**ページを中央に揃える**]、[**オフセット**]、および [**トリミング サイズ**] を選択して、ジョブ マネージャでこれらの列を表示します。
3. [**折丁**] 表示の [**面付けプラン**] セクションで、中央に揃えるページを選択します。
4. [**編集**] メニューから、[**ページを中央に揃える**] を選択します。

APA の演算処理と新しい APA エディタ

自動ページ面付けが容易になるように、Advanced Production Automation (APA) が強化されました。APA コマンド言語が拡張され、新しい APA コントロール ファイルと既存の APA コントロール ファイルの編集に使用できるエディタが新たに追加されました。

APA 機能は、Prinergy が自動的に PDF を面付けに割り当て、特定のジオメトリ設定 (オフセット、方向、その他) をリファイン プロセスの中で設定するものです。APA はすべてのジョブに適用できますが、ページ数が多いジョブに効果的な機能です。

APA には、ページ オフセット演算を解釈するための APA ページ割り当てステートメントを補助する機能があります。たとえば、第 1 章が 28 ページで構成されている書籍の場合、次の章を構成している各ページ番号に 28 を加算するように Prinergy を設定すれば、ページ位置が正しく決定されます。この例の場合、APA コマンド ラインは以下のようになります。

ASSIGN= chapter2.p[#PgPos].pdf myPageSet [#PgPos]+28 1

また、APA にはエディタ機能があります。この APA エディタを使用すると、APA 構文を理解する時間および APA ファイルを編集する時間を削減できます。ワイルドカードの作成を簡素化し、エラー チェック機能については、単純なエラーを自動修正するか修正方法の提案をもとにユーザーが修正を行うかを選択することができます。また、使用する単位を選択することもできます。以前の形式の APA ファイルは、APA エディタとリファイン プロセスの両方でサポートされています。

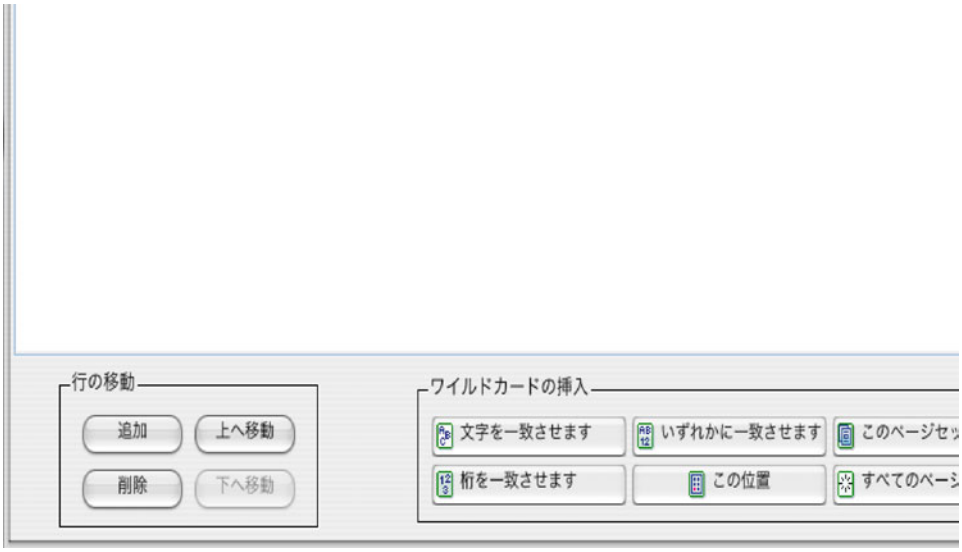


図 1: [**ページの割り当て**] 表示

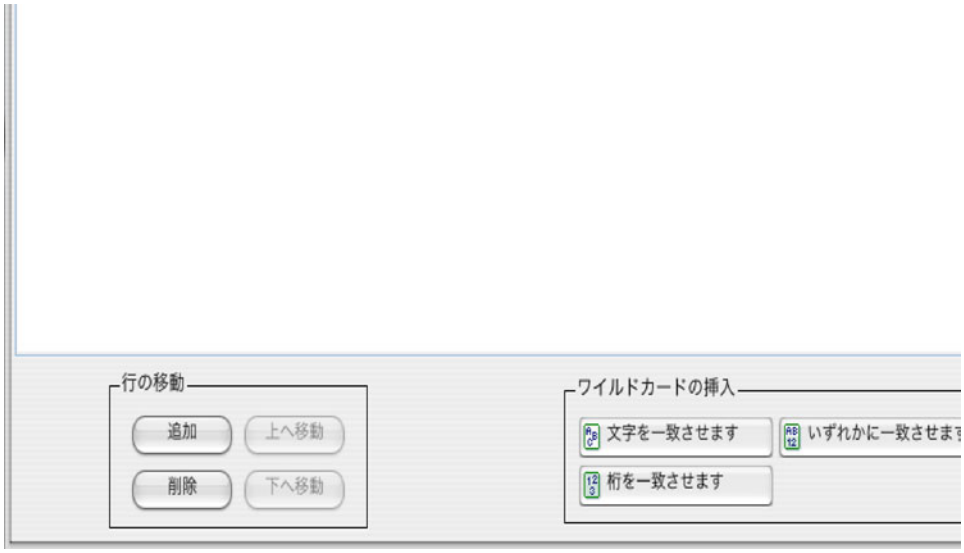


図 2: [**ジオメトリの割り当て**] 表示

```
!
! The APA file format also supports powerful pattern matching. For example:
!
! ASSIGN= "[$].p[#Position].pdf" "[$]" [#Position] 1
!
! This line would assign any file named XXX.pY.pdf to the bottom layer (the
! base layer) of the Yth position in the Page/1-Up Artwork set named XXX.
! The APA file format also allows for automatic modification/assignment of
! various geometric properties for Page/1-Up Artwork. For example,
!
! GEOM= "File1.pdf" 72.0 144.0 712.0 648.0 1.0 1.0 90
!
! This line would modify the geometry of the file named File1.pdf. It sets the
! X offset to be 72.0 points; the Y offset to be 144.0 points. The Trim Box is
! set to be 712.0 by 648.0. There is no scaling and the Page/1-Up artwork is
! rotated by 90 degrees.
!
! Note: Please use a Unicode editor to update this file.
ASSIGN= "[#PgPosition]_[$].p1.pdf" "*" [#PgPosition] 1
ASSIGN= "test.p[#].pdf" "*" 1 1
ASSIGN= "" "" 1 1
GEOM=   "file.p1.pdf" -0.5 0 [] [] 1 1 0
```

図 3: [**未加工の APA ファイル**] 表示

この機能のメリット

ページ位置の演算処理によって、APA ファイルはより標準的なものになり、多くの場合、ファイルのサイズが大幅に縮小されます。

APA エディタを使用すると、適切な APA ファイルを見つけ、それが何をするものであるかを認識し、正しい結果を得られるようにそれを編集するといった作業をより簡単に行えるようになります。

使用に適した状況

この機能は APA のライセンス オプションに含まれています。APA ファイルを使用して、最初のリファイン プロセス時または再リファイン時に、面付けの配置やジオメトリを制御します。この演算処理は、書籍やページ数の多い文書のページ配置を行う際に特に便利です。

APA エディタを使用すると、サイズや複雑さに影響されることなく、APA ファイルを最も簡単な方法で編集およびチェックすることができます。APA およびそのエディタは、Prinergy ユーザーを対象とするツールです。一方、Synapse® Page Assigner は、APA エディタほど強力ではありませんが、より直観的なツールです。ユーザーの顧客は、Synapse® Page Assigner を使用して、その顧客独自の方法でページ割り当てを行うことができます。

エディタを起動するには、次の操作を行います。

[**Prinergy Workshop**] ウィンドウで [**ツール**] メニューからエディタを起動することができます。[**ジョブ マネージャー**] ウィンドウから APA エディタを起動すると、ジョブの APA ファイルが保存されているフォルダが自動的に表示されます。他のウィンドウから APA エディタを開いた場合は、APA ファイルをフォルダ ツリーから探す必要があります。APA のライセンスを保有していない場合は、[**ツール**] メニューに [**Advanced Production Automation Editor**] という項目は表示されますが、選択することはできません。

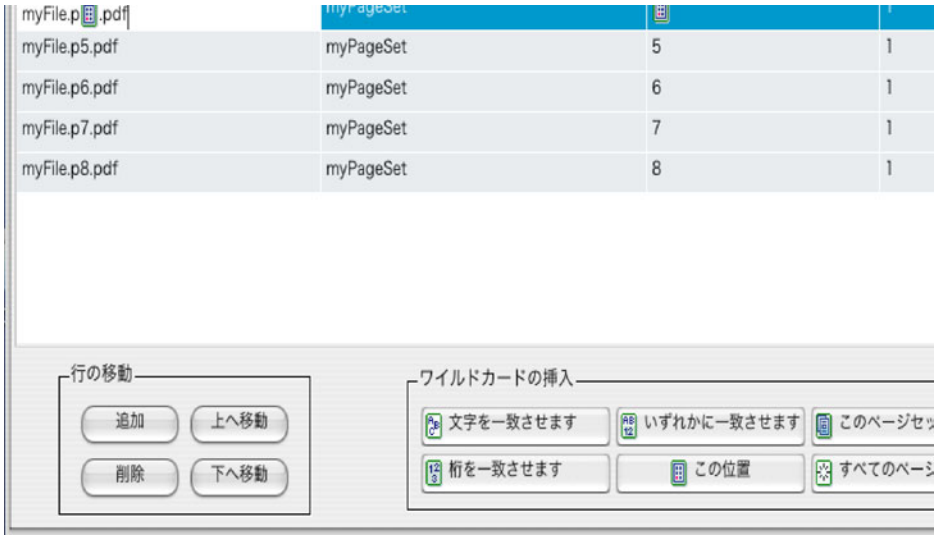
ファイルをロードするには、次の操作を行います。

デフォルトでは、APA エディタを開くと、新しい APA ファイルが作成されます (保存はされません)。既存のファイルをロードするには、[**ファイル**] メニューから [**APA ファイルをロード**] を選択します。同様に、変更を終了したら [**保存**] または [**名前を付けて保存**] を選択します。自動保存機能はなく、ファイルを保存せずに APA エディタを終了することも可能であるため、この操作は重要です。

エディタでデータを表示するには、次の操作を行います。

APA エディタには 3 つのペインがあり、同一のデータが異なる形式で表示されます。1 番目のペインには、APA ファイル内のすべての **ASSIGN=** コマンドが表示されます。2 番目のペインには、APA ファイル内のすべての **GEOM=** コマンドが、指定の単位で表示されます。3 番目のウィンドウには APA ファイルのすべての内容が表示されます。この表示方法は他の APA ファイルとの間でテキストをコピー & ペーストする際に特に便利ですが、APA ファイルの構成を確認するためにも使用することができます。どのペインに変更を加えても、他の 2 つのペインに即座に変更が反映されます。

ジョブ内のリファインされたページ ファイルには、通常似通った名前が付けられます。このことを利用して、ワイルドカードを使用してファイル名の文字を置き換えて検索できます。たとえば、リファインされたファイル名が **myFile.p1.pdf** または **myFile.p2.pdf** の場合、ページ番号のうち 1 つを選択して [**この位置**] ワイルドカード ボタンをクリックします。結果は次のようになります。



この例の場合、APA ファイルは機能しますが、4 番目の行によって他のすべての行のジョブが実行されます。このため、他の行は削除できます。この操作を自動的に実行するには、[**編集**] メニューの [**重複行の簡潔化**] を選択します。

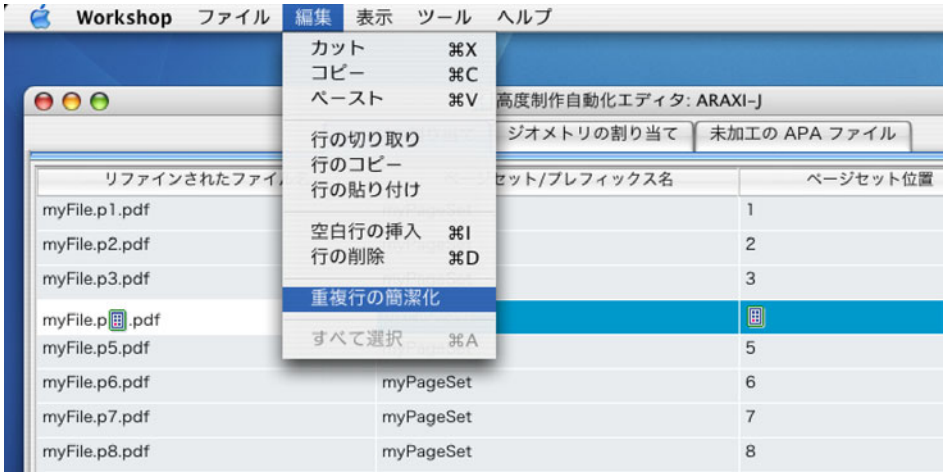


図 4: APA の [**編集**] メニュー

ファイルの内容が自動的に 1 行にまとめられます。この機能は、大容量の APA ファイルを再編集する場合に特に便利です。

APA では多数の標準キーボード ショートカットをサポートしています。ショートカットはメニュー内のコマンドの隣に表示されます。

この機能の詳細については、『Using Prinergy's Advanced Production Automation Feature Technical Bulletin』(Part Number: 719-00018A) を参照するか、Prinergy オンライン ヘルプの *APA* に関する項目を参照してください。

ページ ジオメトリ設定の加算 / 減算

[**ページ ジオメトリ**] ダイアログ ボックスでページ ジオメトリを設定するときに、加算 / 減算で数値を指定できるようになりました。



この機能は、ジョブのページ ジオメトリを手動で調整しなければならない場合に便利です。

出力機能

PDF の発行およびベクター出力における PDF のスケーリングと回転

Prinergy から PDF ファイルを出力する場合は、割り当てられているジオメトリに応じてその PDF のスケーリングや回転を行ったり、オプションで、すべてのトラップを解除することができます。ページ マークが不要であれば、新たに追加されたオプションを使用して PDF ファイルをトリミングすることもできます (トリミング ボックスの設定で出力されます)。

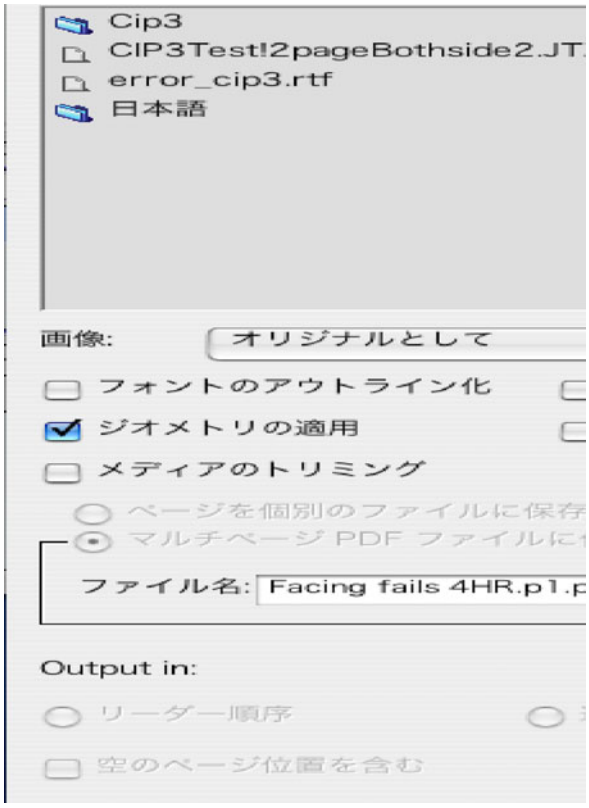
この機能のメリット

PDF ファイルを Web ページとして使用する場合、トラップを非表示にし、トリミング ボックス内のコンテンツのみを使用することができます。また、低解像度版の PDF ファイルをプルーフのために送信する際は、ファイル内のトラップを解除しないとトラップが太く見えてしまうことがあります。

機能について

PDF ファイルは Prinergy Workshop の [**ファイル**] メニューの [**PDF ファイルの発行**] を選択するか、PDF ベクター出力プロセス プランを使用して出力します。

Prinergy Workshop の [**ファイル**] メニューから [**PDF ファイルの発行**] を選択します。[**PDF ファイルの発行**] ダイアログ ボックスが表示されます。



この [**PDF ファイルの発行**] ダイアログ ボックスに、以下の 3 つのチェックボックスが追加されました。

- [**ジオメトリの適用**] ジオメトリ設定に応じて PDF ファイルのスケーリングおよび回転を行う場合に選択します。
- [**トラップの削除**] PDF 出力内のすべてのトラップを解除する場合に選択します。
- [**メディアのトリミング**] PDF 出力をトリム マークに合わせてトリミングする場合に選択します。つまり、新たに生成された PDF ファイルのメディアボックスを元の PDF ファイルのトリミング ボックスと同じにする場合に選択します。

単ページ/アートワーク プロセス プランの [**デバイス**] セクションにも同じチェックボックスが追加されました。



Veris 対応プルーフの印刷

Prinergy では、Veris™ プルーファー対応の Creo Certified Process がサポートされるようになりました。

Veris 対応の Creo Certified Process では、以下の点を確認します。

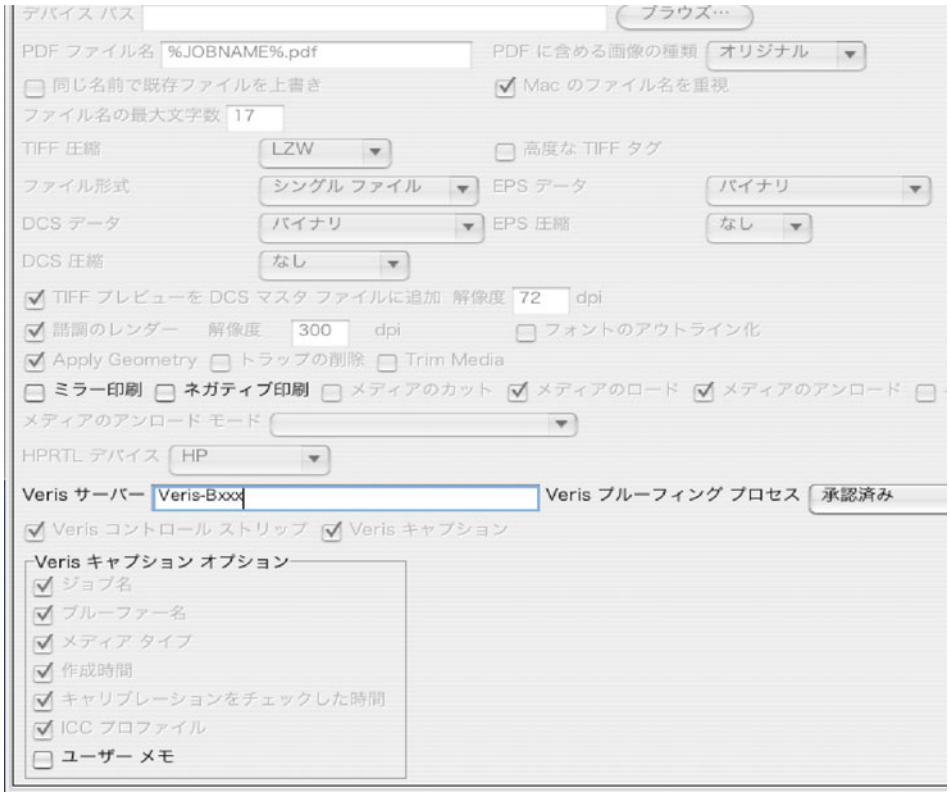
- 適切なキャリブレーションが使用されているか
- キャリブレーション データは有効なものか
- 適切なカラー プロファイルが使用されているか
- 適切なインキが使用されているか
- 適切なメディアが使用されているか

使用に適した状況

この機能は、単ページ/単面アートワーク、または面付けレイアウト プルーフに使用します。

機能について

単ページ出力および面付けプルーフィング出力プロセス プランの [**デバイス**] セクションの [**Veris プルーフ プロセス**] ボックスで、[**認定済み**] を選択します。



スクリーニング履歴

Prinergy では、ジョブ履歴に出力スクリーニング情報が追加されます。これにより、ジョブに正しいスクリーニングが適用されたことをより簡単に確認できます。

ジョブ履歴には、スクリーン システム、ドット形状、スクリーン角度、線数、Maxtone 設定などの情報がキャプチャされます。各スクリーン設定に対して生成される履歴メッセージは、1 つだけです。たとえば、100 個のオブジェクトが同じ設定でスクリーニングされた場合、それらのスクリーニング情報については 1 つの履歴メッセージしか記録されません。

例:



新しい可変マーク

出力生成に使用されるパラメータの一部を取得する可変マークが追加されました。次の可変マークが新しく追加されたものです。

- **$[username]** — 出力プロセス プランを実行したユーザー (ログオン情報に基づいて判別されます)
- **$[device]** — プルーフまたは版を作成した出力デバイス。ファイルに出力した場合は、このマークには出力先となったフォルダが含まれます。
- **$[ICCprofile]** — 出力で適用された ICC プロファイル
- **$[medium]** — 出力で適用された Harmony メディア
- **$[UnmappedColorsOnSurface]** — カラー コンバイナが使用される前のすべての面のカラー
- **$[WebGrowthProfile]** — プロセス プランで使用された Web Growth プロファイルの名前
- **$[PageName]** — レイヤー情報を含むページ名
- **$[PageFileName]** — 最上位レイヤーのファイル名のみ
- **$[colorsOnPage]** — ページのカラーのリストを含み、カラーが割り当てられたレイヤーを示したページ マーク 出力は、次のような形式になります。
  レイヤー 1: < 色 1>, < 色 2>, < 色 3> ... レイヤー 2: < 色 1>, ...
  レイヤー 2 はオプションで、追加のレイヤー (バージョン) が存在する場合のみ印刷します。
- **$[colorsOnSurface]** — 出力上で面に存在するすべての色に代用されるシート マーク 出力は、次のような形式になります。< 色 1> < 色 2> < 色 3> < 色 4> ...

インキ レポート

インキ レポートでは、Prinergy PrintLink 機能によって生成された CIP3 .PPF ファイルを分析して 1 つまたは複数の色版に対するピクセル数を計算し、インキ領域 (平方インチとセンチメートル単位) およびプレートの割合に関するレポートが作成されます。

インキ レポートは、CIP3 .PPF ファイルがホット フォルダに出力される最終出力プロセス プランで自動的に生成されます。インキ レポートは、そのホット フォルダを監視し、テキスト ベースのレポートを出力します。



注意 : インキ レポートを使用するには、PrintLink 機能のライセンスが必要です。

この機能のメリット

インキ レポートはジョブ実行時のインキの消費量を見積るのに役立ちます。

使用に適した状況

この機能は、ページを面付けに割り当てた後に使用できます。

機能について

インキ レポートを設定するには

1. **%ARAXIHOME%\CreoAraxi\bin\Ink** フォルダからデスクトップにインキ レポートのショートカットをドラッグします。
2. ショートカットを右クリックして、[**プロパティ**] を選択します。
3. [**ターゲット**] ボックスには、インキ レポートを実行するコマンドと 2 つのパラメータがあります。最初のパラメータは、CIP3 .PPF ファイルが保存されるホット フォルダのパスです。2 番目のパラメータは、インキ レポートが生成されるディレクトリです。必要に応じて、これらのパスを編集します。ホット フォルダのデフォルト パスは、**J:\Ink\in** で、レポートのデフォルト パスは、**J:\Ink\reports** です。
4. ショートカットを設定したら、ダブルクリックします。この操作により、ホット フォルダの監視を開始するインキ レポート デーモンが起動します。ホット フォルダまたはレポート出力のディレクトリが存在しない場合、インキ レポート デーモンにより、これらのディレクトリが作成されます。この処理は、最小化されたウィンドウで実行されます。システムを再起動する際には、このデーモンを再起動する必要があります。

新しい最終出力プロセス プランを作成するには

1. 出力タイプを選択します。
2. [**PrintLink**] チェックボックスをオンにします。
3. [**出力タイプ**] が [**絶対ファイル**] に設定されていることを確認します。[**ファイルをディレクトリに配置**] ボックスで、**インキ レポート**のホット フォルダを選択します。
4. [**ファイル生成モード**] ボックスで [**1 シートに 1 ファイル**] を選択します。こうすることにより、すべての色版と両面に関するすべてのインキ値が 1 つのテキスト ファイルにまとめられます。
5. [**デバイス**] チェックボックスをオフにします。

以下に、インキ レポートのサンプルを示します。

J:\Ink\in\TF_Ink!test_13_2.1AB.CMYK.ppf のインキ カバレッジ レポート
表面

カラー	領域 (cm2)	領域 (in2)	% カバレッジ
シアン	341.54	52.94	1.32
マゼンタ	929.05	144.00	3.60
イエロー	1432.81	222.09	5.55
ブラック	292.75	45.38	1.13
5 番=カスタマー定義カラー	42.59	6.6	0.17
5 番=カスタマー定義カラー	107.78	16.71	0.42
5 番=カスタマー定義カラー	136.66	21.18	0.53
ダイ	32.41	5.02	0.13
FDDkBl	34.96	5.42	0.14
PANTONE 485 CV	262.81	40.74	1.02
ニス	0.55	0.08	0.00

DigiCap スクリーニング

DigiCap™ は Creo のスクリーニング技術で、デジタル フォトポリマー メディアの塗りつぶし領域へのインキの転写を改善します。

この機能のメリット

フォトポリマー プレートの滑らかな表面に蓄積したインキは均一の厚みを保つことができないため、フレキソ出力の画像表示に、塗りつぶしの濃度の不均一や過度のドット ゲイン、スラーなどの問題がしばしば起こります。

DigiCap はプレートの表面に小さな反転ドットを適用し、視覚的な影響を最小限にとどめ、場合によってはドット ゲインを減少させ、塗りつぶしのインキ濃度を高めます。塗りつぶしに濃淡を適用すると、塗りつぶし領域内の点で表現される影響を少なくし、インキ濃度を高め、視覚効果を改善します。

機能について

DigiCap テクスチャを設定するには、反転ドットのサイズと、出力プロセス プランの [**キャリブレーション＆スクリーニング**] セクションで濃淡の割合をパーセントで指定します。また、DigiCap テクスチャを適用しないエレメントのエッジからの距離をピクセルで指定します。

DigiCap 反転ドット サイズおよび濃淡の割合を正しく定めるには、ドットの粗さのレベルと濃淡の割合を複数組み合わせたテストを実行する必要があります。詳細については、『Prinergy Advanced Flexo Implementation User Guide』を参照してください。

HyperFlex スクリーニング

HyperFlex™ は Creo の新しいスクリーニング技術で、フォトポリマー プレート上に細かいドットまたはグラフィック エレメントを形成する補助となります。HyperFlex プロセスでは、ハイライトのドットの間および周囲に印刷されない UV ランプを適用します。HyperFlex をご使用いただくには別途ライセンスが必要です。

HyperFlex を使用すると、次のものも調整できます。

- ハイライトの点など小さなグラフィック エレメント内および周囲のレリーフ深度
- ハイライトの点など小さなグラフィック エレメントをサポートする縁の幅

この機能のメリット

UV ランプはフレキソ印刷版のレンダーしきい値より下にあるため、印刷されません。ただし、ポリマーを生成してドットの間や周囲のレリーフ深度を減少させる働きがあります。HyperFlex はドット周囲のベースを拡張し、ドットの形状を改良して、印刷時に圧力が加わるときの耐久性を高めます。

機能について

出力プロセス プランの [**キャリブレーション＆スクリーニング**] セクションで、**HyperFlex** ドット サイズをピクセル単位で設定します。

HyperFlex ドットの適切なサイズを定めるには、HyperFlex ドットがプレート上に見えるようになるまで HyperFlex サイズを徐々に大きくして、露出テストを何回か実行する必要があります。詳細については、『Prinergy Advanced Flexo Implementation User Guide』 を参照してください。

Virtual Proofing System 2.0

Virtual Proofing System 2.0 は Mac OS X 上で実行できます。Mac OS 9.x ユーザー用に、 Prinergy 2.2 Virtual Proofing System 1.2.8 も従来通り使用できます。Virtual Proofing System 2.0 には Virtual Proofing System 1.2.8 のすべての機能に加えて、いくつか拡張された機能があります。以下も参照してください。「Virtual Proofing System での TIFF タグ」(30 ページ)

この機能のメリット

Virtual Proofing を使用すると、次の操作を画面上で実行できます。

- レンダー ファイルのプレビュー
- 面付け、見当、トラッピング、ページのバックアップ、フォント、画像置換、および色分解の画面上での確認
- 透明色、制限のない特色数、および拡大ズームの表示
- 複数のジョブに適用するカラー定義の保存

機能について

1. Prinergy プロセス プランを使用して、Virtual Proofing System ファイルを生成できます。
2. デスクトップから、Virtual Proofing System を起動します。
3. 表示するファイルを開きます。

詳細については、『Virtual Proofing System ユーザー ガイド』を参照してください。

デジタル印刷

Prinergy のデジタル印刷機能を使用すると、Xerox DocuColor および Docu Tech Digital Press を制御する Xerox Freeflow Print Manager などの、サポート対象のデジタル印刷アプリケーションにアクセスできます。



注意 : Digital Print ソフトウェアがライセンスされている場合のみ、Digital Print Integration が使用できます。

この機能のメリット

この機能により、Prinergy ワークフローにデジタル印刷ジョブ プログラムを統合できます。ジョブを作成し、保存する際に Prinergy および Synapse ツールセットを使用することができ、Prinergy Workshop から、デジタル プリンタでのデジタル印刷ジョブの設計、およびジョブのプルーフ、印刷、および管理などのキュー管理に直接アクセスできます。

機能について

1. デジタル印刷アプリケーションを設定します。
2. 印刷準備ができているジョブを選択します。
3. [**出力**] メニューから、[**デジタル印刷用に送信**] を選択します。
4. 起動するデジタル印刷アプリケーションを選択します。

オーバープリント処理

オーバープリント処理は、オーバープリントされたオブジェクトのラスター カラー マネジメントを提供する、単ページおよび面付けプルーフのための新しいプルーフ機能です。



注意 : Creo Advanced Color Management ソフトウェアがライセンスされている場合のみ、オーバープリント処理が使用できます。

この機能のメリット

オーバープリント処理によりラスター カラー マネジメントが有効となり、プルーフ プロセス ICC プロファイルを使用してカラー マッチングが行われたオーバープリント オブジェクトの外観を保ちます。ラスター カラー処理により、オーバープリント オブジェクトに意図しないノックアウトが発生することを防ぎます。

機能について

1. Advanced Color Management のライセンスを取得します。
2. カラー変換に Creo Color Matcher JTP を使用します。
3. 単ページまたは面付けプルーフ プロセス プランの [**レンダー**] タブで、[**諧調**] を [**256**] にします。
4. [**カラー マッチング**] タブで、[**ページ コンテンツのカラー マッチング**] を選択します。
5. [**カラー変換**] タブで、[**オーバープリント処理**] を選択します。

代用カラー定義の使用

カラー エディタまたは Creo Color Match JTP で PDF ファイルに定義された代用カラー定義を使用するオプションを選択できるようになりました。このオプションは、出力のリファイン中およびプルーフ中に使用できます (OEM Color Match JTP では、このオプションはデフォルトで有効でした)。

この機能のメリット

この機能は、ファイルで定義されたカラー レシピとは異なるスポット カラー レシピを使用したい場合に便利です。

機能について

このオプションを有効にすると、ジョブ単位のカラー エディタ、グローバル カラー エディタ、またはデフォルトの Pantone ライブラリ (ロードされている場合) で定義されたレシピを Creo Color Match JTP で使用できます。カラーが見つからない場合は、ファイルで定義されたカラーを使用します。

リファイン中にこのオプションを選択すると、ファイル内のレシピはカラー エディタで作成されたレシピに置き換えられます。

単ページまたは面付けプルーフ プロセス プランの [**カラー変換**] タブで、[**可能であればカラー エディタの代替カラー定義を使用**] チェックボックスをオンにします。

拡張された機能

このセクションでは、Prinergy 2.2 で強化された新機能について説明します。ソフトウェアの問題を解決するために変更された機能については、2 ページの「修正された問題」で説明しています。

インストールおよびシステムの拡張機能

Prinergy Workshop と Adobe Acrobat 6

Prinergy Workshop 2.2.1.5 では、Acrobat 6 の次の機能を完全にサポートしています。

- PDF の表示と変更
- Prinergy Workshop のアップデート中に Acrobat 6 プラグイン専用フォルダをインストールおよびアップデート

Acrobat 6.0 Professional をインストールして、次に Prinergy Workshop を通常通りアップデートします。新機能の Client Auto Update ユーティリティにより、Prinergy Acrobat プラグインが正しく Acrobat 6.0 フォルダにコピーされます。

従来通り Prinergy クライアントで Acrobat 5.05 を使用することもできますが、Mac OS X では Acrobat 6.0 のみが動作します。

Adobe Distiller 6 の推奨される設定に関する情報が、Prinergy オンライン ヘルプに追加されました。



注意 : Prinergy システムでは Acrobat 5.05 または Acrobat 6.0 のいずれかを使用する必要があります。

Synapse Link の統合

Synapse Link は別途ライセンスをご購入いただく Creo のソフトウェア アプリケーションで、プリプレス ワークフロー システムと経営情報システム (MIS) との間にメッセージング インターフェイス (リアルタイム JDF 接続) を提供します。Synapse Link との統合を強化し、データ品質を改善するために、Prinergy では次のことが可能です。

- ジョブの作業状況に関する情報の追加
- Prinergy を終了せずに新規ユーザーに切り替え

Synapse Link では、ワークフロー システムと経営情報システムとの間の生産データおよびジョブ ステータス情報の交換が自動化されます。これにより、同じ情報を手動で両方のシステムに入力する必要が少なくなります。MIS を導入していない場合は、Synapse Link のレポート機能を使用して、MIS に送られる場合と同じ情報を取得できます。この情報はさまざまなレポート形式で利用できます。詳細については、『Synapse Link システム管理ガイド』(Part Number: 725-00078A) を参照してください。

この機能のメリット

処理される作業の発生要因に関する情報が提供されると、経費の発生するイベントへの課金方法を決定しやすくなります。定義済みの作業タイプのいずれかを選択するか、ジョブごとに作業タイプをカスタマイズして、処理される作業の発生要因とその承認者に関する詳細を追加できます。

ユーザーの切り替え機能は、1 日に複数のユーザーが Prinergy にアクセスするワークステーションを使用している場合に便利です。この機能を使用すると、個別のユーザー プロパティを作成する必要がありません。この機能では、Prinergy にユーザー プロパティまたはジョブのリストを再読み込みすることなく、ユーザー ID をすばやく変更でき、適切なプロセスの使用を促進し、結果としてユーザーの活動レポートをより正確なものにします。

機能について

Prinergy Workshop で Link 機能を有効にするには、次の操作を行います。

Synapse Link を購入されている場合、Prinergy Workshop の [**サーバーに接続**] ダイアログ ボックスに [**ユーザーの切り替えを有効にする**] オプション ボタンが表示されます。[**ユーザーの切り替えを有効にする**] ボタンをクリックして、他の Link 機能を有効にします。

Workshop を終了せずにサイン アウトするには、次の操作を行います。

ユーザー ID の切り替えは複数のユーザーが Workshop にアクセスするワークステーションで使用されますが、独自のユーザー プロパティは必要ありません。この機能を使用することで、Workshop を終了することなく、またユーザー プロパティまたはジョブのリストを再読み込みせずに、ユーザー ID を素早く変更できるようになります。独自のユーザー プロパティ (ツール バーなど) を読み込む場合は、通常のログインを実行する必要があります。

1. [**ジョブ ファインダ**] または [**ジョブ マネージャ**] の [**ツール**] メニューから、[**ユーザーの変更**] を選択します。
2. [**Prinergy Server への接続**] ダイアログの [**ユーザー名**] ボックスに新しいユーザー名を入力します。
3. [**パスワード**] ボックスに新しいユーザー名のパスワードを入力します。
4. [**ログイン**] をクリックします。

注意 : [**ユーザーの変更**] の選択後は、操作をキャンセルできません。Workshop の終了もユーザー ID の切り替えもしない場合は、現在のユーザー名とパスワードを再入力してください。

作業タイプを管理および記録するには、次の操作を行います。

処理される作業の発生要因を取得して、経費の発生するイベントへの課金方法を決定できます。Synapse Link により、この情報が接続された MIS システムで使用できるようになります。

Synapse Link を購入されている場合は、[**プロセスの開始**] ダイアログ ボックスから [**作業タイプ**] ダイアログ ボックスが使用できます。

リファインおよび出力の拡張機能

PDF デジタル マスタのオプティマイズ

デフォルトでは、ノーマライザによってテキストおよびライン アートが圧縮され、容量の小さいデジタル マスタが出力されるようになっています。この機能は、Prinergy 2.1.x では採用されていません。ノーマライザでは、Flate 圧縮を使用して、ページ コンテンツ ストリーム、フォーム、パターン、および Type 3 フォント コンテンツ ストリームが圧縮されます。

Page Assigner JDF における [All] のサポート

Page Assigner JDF でページ セット名として **[All]** を使用すると、Prinergy によって、すべてのページ セットに対して指定のページが割り当てられます。

この機能は、バージョニング ジョブの際に便利です。1 つの Page Assigner JDF を使用して、すべてのページ セットに基底ページを割り当てることができます。

Page Assigner JDF をサポート

バージョン 2.2 より前の Prinergy では、Page Assigner JDF からファイルを受け取る際は ZIP 形式でしか受け取ることができませんでした。Prinergy 2.2 では、ZIP ファイルと JDF ファイルの両方を受け取ることができます。

自動インポート機能の改善

次のことが可能になりました。

- Page Assigner JDF（未圧縮）をプリジョブ ホット フォルダにインポートして、新規ジョブを作成できるようになりました。Page Assigner は Prinergy Advanced Production Automation ライセンスに付属して提供され、また Synapse Prepare を購入すると付属して提供されます。
- インポート プロセス プランにより、面付けプランのインポート後に既存のページ セットが保持されたまま、自動的に最初の色版設定が生成されるように設定します。
- 面付けプランのインポート中に、ページが面付けのインポート以前にすでにリファインされている場合でも、そのページが自動的に割り当てられるようにインポート プロセス プランを設定します。

ページ セット オプションの名前が変更され、累積的なオプション セットとして再編成されました。

機能について

- [**面付けをインポートした後に色版の最初の設定を実行**] チェックボックスをオンにします。
- [**後から面付けをインポートしたときにページを自動的に割り当てる**] チェックボックスをオンにします。

Virtual Proofing System での TIFF タグ

出力プロセス プランで [**デバイス**] セクションの [**特殊な TIFF タグ**] チェックボックスをオンにすると、Virtual Proofing System 2.0 で次が行われます。

- Prinergy でカラー レシピを入力した場合、カラー レシピを再入力せずにスポット カラーを表示
- カラーの不透明度を反映

Harmony カーブの並べ替え

出力プロセス プランの [**キャリブレーション&スクリーニング**] セクションの [**キャリブレーション カーブ**] が、アルファベット順に表示されるようになりました。

レンダリング インテント

[**レンダリング インテント**] オプションが拡張され、異なるオブジェクト タイプに対して、知覚的または相対的なレンダリング インテント、または PDF ファイルから抽出されたレンダリング インテントを選択できるようになりました。

この機能のメリット

レンダー目的により、異なる画像およびグラフィックに対して彩度を指定し、システムで最適な結果を得ることができます

機能について

1. [**リファイン**] プロセス プランの [**カラー変換**] タブで、**CMYK**、**RGB**、または [**キャリブレーションされた色**] オプションで、[**画像**] または [**グラフィック**] のいずれかのオブジェクト タイプを選択します。
2. [**相対的**] を選択し、画像およびグラフィックの全域圧縮をオフにして選択されたオブジェクト タイプの彩度を維持します。
3. [**知覚的**] を選択して、全域圧縮を使用して選択されたオブジェクト タイプに彩度の少ない色を生成します。
4. [**PDF の設定を維持**] を選択し、制作ソフトウェアから出力されたファイルで指定されたオブジェクト タイプのうち、選択したものにレンダリング インテントを使用します。



注意: [**キャリブレーションされた色**] とは、ICC-tagged、CalGray、または CalRGB などの埋め込まれた ICC プロファイルのある CMYK および RGB オブジェクトのことです。キャリブレーションされたカラーの色域を維持してレンダリングを行う場合は、[**埋め込まれたプロファイルを上書き**] をオフにしてください。

制限とこれまでにわかっている問題

このセクションでは、Prinergy 2.2 の制限と、これまでにわかっている問題について説明します。以前のリリースから継続している問題も、新しい問題もあります。ここで説明する問題が解決された場合、Prinergy ソフトウェアの次期バージョンのリリース ノートの「修正された問題」のセクションで解決方法を説明します。

NormInputConfig でトリミング ボックスを変更できない

Prinergy では、以下の種類のファイルについては、NormInputConfig によってトリミング ボックス情報を変更することはできません。

- Adobe Illustrator® 10.0 で作成されたファイル
- Adobe Illustrator 10.0 で AI 8 互換として保存されたファイル
- Prinergy で出力された DCS ファイル。注意: CopyDot Toolkit で作成された DCS ファイルではこのような問題は発生しません。